

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和元年9月5日
タイトル	お弁当につめよう会
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和元年6月25日（火）福山市立東村小学校全児童が、学校給食食材納入グループ「若草会」や日頃学校の運営でお世話になっている方々を招き「お弁当につめよう会」を開催されましたので取材しました。

「お弁当につめよう会」は、学校給食を弁当箱につめることで、食事のバランスやつめ方を学び、若草会や農家の野菜と作ってくださる方の愛情を感じ取るという取り組みです。

給食の前に若草会のみなさんが学校農園などで栽培し、東村小学校へ納めている野菜作りの苦労や取り組みを劇にして子ども達に披露されました。

今日の主役は「東っくん（とっくん）」昨年末に東村小学校の児童が考えたキャラクターです。



メイクも念入り！



東っくんの大冒険だよ！



かわいいミツバチも登場！

東っくんが学校農園を冒険していると野菜に話しかけながら大切に育てている人や除草剤をなるべく使わないように草取りをしている人、落葉を沢山持って来て畑の土を栄養いっぱいになっている人などに会い、学校農園での取り組みを知りました。

つぎに会った人は「空豆が立派にできたのに、給食の献立をみると2週間も先だったから納入できなかった。ハウレンソウを納入する日になっても全然育ってなくて間に合わなかった。」「採れたてを持って行こうと朝5時に大根を採って持って行ったら中が凍とった。」「失敗談を話してくれました。東っくんは、給食の献立どおりに納入する難しさを知りました。

色んなことを学んだ東っくん、そこへなんでも知ってる野菜博士とミツバチがやってきました。ミツバチは白、赤、黄色の花を見せ、みつばちは人間と違う視覚で黄色の色を捉えていることを教えてくれました。博士が黄色の花を見せて「何の花か分かりますか。」と聞くとすぐに「かぼちゃの花」と答える子どもが何人もいてびっくり。さすが東村の子ども達です。

博士は、みつばちが野菜の受粉に大きな役割を果たしていることや農薬などの影響で年々みつばちが減少していることを教えてくれました。博士は、時間がオーバーしないようにとタイマーをセットしていましたが、タイマーがリンリン鳴っているのにお構いなしに話しをするので、子どもも大人も大笑いしました。

最後に博士から「子ども達は野菜を育てていますが、育ててやっていると試してみるのではなく野菜がいろんなことを教えてくれるんだと思って、じっと耳を傾けて野菜の声を聞きながら育ててください。」と言われ、子ども達や見学していた人から大きな拍手が送られました。

ランチルームに移動し、給食が配膳されると子ども達は家から持ってきた弁当箱を準備しました。「お弁当につめよう会」の始まりです。最初に若草会から「学校の行事などに呼んでいただいて、孫に接するような気持ちでいるので元気をもらって、地域の仕事や農作業をする活力になっています。みんなありがとう。」と挨拶されました。

子ども達は給食を弁当箱につめます。つめてみると弁当箱が大きかったり、小さかったりするのがよく分かります。ごはんには肉じゃがの汁がしみちゃうけど、それもおいしいよねと言いつめてから食べました。

私と同じテーブルの子どもは「東っくん」について教えてくれました。東っくんは9歳で、身長150センチ体重70kgです。「思ったより重たいんだね。」と言うと「服が山と川でできてるし、俵を背負っているんだよ。」と教えてくれました。トマトが大好きで靴がトマト、ズボンはネギでできているそうです。来年再編する今津小学校にもキャラクターがいるそうで、東っくんも一緒に今津へ行ってお友だちにしてもらおうといいねと話しました。



福山市地産地消推進課のマスコット「ちっちくん」がサプライズで登場し、子ども達は大喜びで記念撮影をしました。

箸袋には東っくんから可愛いメッセージが添えてありました。

小学校の再編まで9か月、若草会のみなさんは精一杯野菜を納入したいと言われておられました。

今回の取材では、今まで以上に子ども達と地域の方々の絆を感じました。これからも21世紀土地改良区創造運動を通して子どもと地域の絆を深める取組みに協力してまいります。